



# 日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会  
復刊第242号  
2021年5月1日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

## 世界最初の女性医師から学んだこと

会長 大谷智子



2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により非常事態宣言が繰り返され、年明けからは変異株の蔓延による更なる感染拡大が巻き起こり、社会生活がこれほど長く制限されることを予想できなかったと思います。

2022年に日本女医学会は創立120年目を迎えますが、日本女医学会創立100周年記念出版として刊行された「世界最初の女性医師～エリザベス・ブラックウエルの一生～」を角川書店の編集者が一読され、角川まんが学習シリーズ『まんが人物伝』におけるエリザベス・ブラックウエルの監修を依頼されました。創立100周年で出版されたこの本は、記念事業を担っていた橋本葉子会長が企画され、大阪支部の大原一枝先生がアメリカに移住されていた時に現地で1944年に発刊された原本を、亡父とともに翻訳された伝記本です。

エリザベス・ブラックウエルは1821年にイギリスに生まれ、1832年家族が渡米し、「もし女性の医師がいたら早く診てもらえた……なぜ、医師にならないのか？」という子宮癌に侵された母親の友人からの言葉とパイオニアとしての天性から医師への道を志しました。女性に対し門戸を開かなかった米国の医科大学の中で苦難の末に1849年世界で初めて医科大学を卒業し、米国で医師登録をされました。しかしながら、その後も他国では認められず、研修中に乳児から悪性眼炎を移され片眼失明に至りましたが、外科医を諦め内科医に転向し1859年に初めてイギリスで医師免許を取得しました。その後も不屈の精神力で、1857年に慈善病院であるニューヨーク・インファーマリーを設立し、南北戦争時に人種に関係なく医療を施

し、リンカーン大統領から表彰を受けました。そして念願であった世界初の女子医学学校を1868年に設立し、信念で取り組んだ予防医学を教え普及に努めたとされています。

日本で最初の女性医師である荻野吟子、東京女子医科大学を創立した吉岡彌生らの苦難は周知のことと思いますが、共通していることは女性の地位の向上、そして女性医師の誕生を願っていたということです。エリザベスらが訴えていたジェンダー平等は150年経った今でも達成されておらず、人種による問題が現在も各国で問題視され、自由が失われていく現代世界を彼女らはどのように思うのでしょうか？きっと憂いずにはおられないでしょう。

150年前には多くの感染症が流行し、確立した医療もない時代に奔走したエリザベスが信念を貫いて普及させた予防医学が、現代の新型コロナウイルス感染症の予防対策に通じるものであるということに非常に感動致しました。

多くの先輩女性医師が築きあげた歴史を、振り返り語ることも日本女医学会の使命であると考えているとともに、これからの未来を担う後継者である女性医師に対し働きやすい環境を整え、希望を与えることも責任だと考えています。

今後ともご支援宜しくお願い申し上げます。

### \* 「世界最初の女性医師

～エリザベス・ブラックウエルの一生～」  
発行：日本女医学会 定価：1500円+送料510円

ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

## 日本女医学会誌（復刊第242号）もくじ

巻頭言	大谷智子 (1)	講演会報告	理事会議事録	(7)
第66回定時総会		女性の健康支援事業市民公開講演会報告	令和3年度「児童福祉週間」のお知らせ	(9)
開催方法変更について	大谷智子 (2)		樋渡奈奈子 (3)	各賞のご案内 (9)
栃木県での開催の延期につきまして		長寿社会福祉事業講演会	馬場安紀子 (4)	軽井沢セミナー中止のお知らせ (12)
	山崎トヨ (2)	国際女医学会通信	前田佳子 (5)	会員動静 / 寄附者一覧 (12)
新設 IT 部のご紹介	大谷智子 (2)	日本女医学会アーカイブ⑩	(6)	訂正とお詫び / 編集後記 (12)

# 公益社団法人日本女医会 第66回定時総会

## 開催方法変更について

公益社団法人日本女医会 会長 **大谷智子**

2021年5月16日に栃木県宇都宮市にて開催を予定しておりました「公益社団法人日本女医会第66回定時総会」ですが、新型コロナウイルス感染症が拡大し、終息の見通せない中、現地での準備、開催は非常に困難な状況となっております。

そのため、検討の結果、本年も昨年同様 Web を利用しての定時総会を開催することにいたしました。今回は会議用ツール ZOOM を利用しての開催といたしますので、参加方法等につきましては、すでにご送付しております総会のご案内をご確認下さいますようお願い致します。

また、栃木での開催につきましては、2023年の第68回定時総会へ延期させて頂ければと存じます。2022年は役員改選の年度となり、東京開催の予定ですが、再び皆様にお目にかかれますことを楽しみに致しております。

感染拡大の終息を願うとともに、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2021年4月吉日

## 栃木県での開催の延期につきまして

栃木支部長 **山崎トヨ**

若葉の候、皆様におかれましてはご清祥にお過ごしのことと存じます。

この度の第66回日本女医会定時総会の宇都宮市での開催につきまして、栃木支部役員一同は、昨年より鋭意準備を進めて参りましたが、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の終息の目処が今だに立たず、日本女医会本部の理事会とも協議の上、今年度の開催は延期せざるを得ないということとなりました。

エクスカッションをはじめ、懇親会など、皆様のご再会を心待ちにしておりましたが、誠に残念に存じます。

2023年の第68回総会には、ぜひ皆さまにお越しいただき、楽しいひと時をご一緒できればと切に願うとともに、医療の最前線でご活躍される皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2021年4月吉日

## 新設 IT 部の ご紹介

昨年から SNS 担当理事として青木正美理事には、男女共同参画、女性の健康支援事業、長寿社会福祉の各委員会における公開講演会に孤軍奮闘して成功を収めて頂きました。個人としての仕事量も多いことから、新しく Information technology 部(IT 部)を設立し部長として活躍して頂くことになりました。部員は磯貝晶子理事と木村友美理事の若い2人をお願いし、今後の情報化社会に対応していきたいと存じます。

## 第66回定時総会(オンライン総会)での 議決方法のご案内

会長 **大谷智子**

さて、5月16日のオンライン総会に参加された場合の議決方法についてご案内したいと存じます。Zoomに参加されると表示名が映し出されますが、お名前の表記は様々です。

参加後に表示名を変更することが難しいことも懸念され、投票方法を簡便化するために次の方法を考えましたのでご協力をお願い致します。

- ① A4の白い紙を用意して頂き、ご自分の名前を大きくお書き下さい。
- ② ビデオ付きで参加いただき議決の際は、ビデオを ON にしてください。

③ 議決に賛成の場合は、図のように名前の紙をお持ち頂きビデオに表示頂ければと思います。

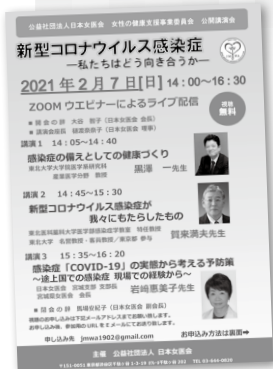
\*ご不明な場合は、事務局までお問い合わせ下さい。



## 女性の健康支援事業市民公開講演会報告

### 「新型コロナウイルス感染症～私達はどう向き合うか～」

2021年2月7日(zoom ウェビナーによるオンライン開催) 女性の健康支援事業委員長 樋渡奈奈子



当事業は、本来は女性に対しての健康啓発・支援を目的の一つに公開講演会を開催して参りましたが今回は拡大する新型コロナウイルス感染症に関し、全国民の皆様にお役に立てるように、『新型コロナウイルス感染症～私達はどう向き合うか～』と題して、オンラインによる公開講演会を開催致しました。反省点は多々ありますが、北海道から長崎まで全国から100名近くの方が参加されましたことに感謝申し上げ、今後も充実した内容の講演を企画し、会員の皆様並びに一般の方が更に参加されますよう努めて参りたいと考えております。

各講師の先生方には、ご専門の立場から、新型コロナウイルスに関して基礎からワクチン更には With Corona の現在における社会生活の指標まで、詳しくお話を頂きました。また、講演会の形式がなかなか決定出来ない状況の中、開催に関し、多大なるご協力を頂きましたことに心より、感謝申し上げます。

#### 講演1

### 『感染症の備えとしての健康づくり』

東北大学大学院医学系研究科  
産業医学分野教授 黒澤 一先生

黒澤 一先生には、ご専門である呼吸器学並びに産業医学分野のお立場より、新型コロナウイルスの特性そして予防のために私達が心がけることについてお話頂きました。呼吸器における気道上皮には様々な防御機構が存在するが環境汚染物質はその機能を障害し、特に喫煙は COVID-19 感染リスクを高め、重症化させるとの論文をお示しされ、禁煙の重要性を強調されました。タールやニコチンには自然免疫反応への免疫抑制効果があり、好中球における様々な作用を抑制し、病原体が死滅しにくくなるように作用し、喫煙により、増加した肺胞マクロファージでは食作用活性が著しく低下し、COVID-19 の標的細胞とされる ASE2 発現が増加すること、若者の e-cigarette 使用者では COVID-19 リスクが高まるとのことでした。次に、身体活動(運動や家事)と細胞間の相互作用に関し、身体活動を高めること=運動により風邪(上気道感染症)の減少、炎症細胞の抗ウイルス活性の強化等免疫関連の効果やうつ病への効果をご説明され、『Stay active!』特に高齢者における運動の重要性を強調されました。また、自然免疫強化に重要な他の生活要素として睡眠、休養、メンタルヘルス、笑うこと!、腸内環境を保つこと(Probiotics, etc.)、過度のアルコール摂取を避けること等は大切であり、食事による亜鉛、タンパク質、フルーツや野菜、ナッツ、納豆、穀物の摂取等も重要であり、最後に感染症に対して抵抗できる健康作りには、環境中の空気の清浄化・温度管理、禁煙、身体活動/運動、栄養等を心がけることとまとめられました。

#### 講演2

### 『新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたもの』

東北医科薬科大学医学部感染症学教室 特任教授  
賀来満夫先生

『新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたもの』の演題ではじめに『感染症の脅威とウェルネス』について、次に世界の発生状況からワクチンに至るまでの幅広いお話を頂き、最後に感染症危機管理のポイント『With Corona 時代における感染リスクコントロール』についてお話頂きました。

重要なのは 1:エビデンスに基づいたリスクコントロール(感染予防の習慣化)と2:ソーシャル&インテリジェンスネットワークの構築とこのことであり、『教育・啓発の重要性』並びに専門家・各種行政や団体との連携(ネットワーク)を強調されました。東北大学に在籍中に小学生とその保護者を対象とした手洗い等の啓発を目的とした『キッズかんせんセミナー』等を開催するとともに、感染症に対して地域の諸団体とも連携した先生の教育・啓発活動や、東北医科薬科大学 HP への啓発関係資料や、作成されたハンドブック掲載等並びに各種団体等とのネットワーク作り等、お忙しい中、多岐にわたる活動をされているお姿に感銘を受けました。

また、新型コロナウイルス感染症増加に関し、各種の要因をあげられ私たちが注意すべき点につき、具体的にご説明頂き、手洗いやマスクの重要性、そして最後にすべてのキーは『Human Network』:人と人との連携が一番のワクチンとまとめられました。

#### 講演3

### 『感染症 COVID-19 の実態から考える予防策～途上国での感染症現場での経験から～』

日本女医会 宮城支部長/宮城県女医会会長  
岩崎恵美子先生

岩崎恵美子先生には、『ズーノーシス』という初めて何う名前の『人畜由来感染症』『動物由来感染症』の概念から2000年のアフリカ・ウガンダでのエボラ出血熱流行に際し、WHOからの要請を受け、現地での診療と調査に従事された当時の貴重なご経験と耳鼻科医としてのご専門の立場から COVID-19 の特性と予防策を含めてのお話を頂きました。尚、先生は現在、日本女医会宮城支部部長を務められており、先生のご厚意により本講演に関しましては後日配信予定です(準備次第、HPにて案内予定)。

1970年代~世界のどこからでも感染が広がる時代となり、グローバル化により、新興感染症の概念が生まれる。これまで人間社会に存在しなかった、新たな感染症があり、エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ラッサ熱、ジカウイルス感染症など、殆どが動物の生存領域への人間の侵入であり、野生動物との接触がなければ感染しない。近年の感染症は全て動物由来これは人類が奥地に入っていたことが原因でもある。エボラ出血熱はコウモリが原因であるが、そのコウモリをゴリラなどが食べ、そのゴリラを現地の人間が食べることで感染が拡大した。エボラ出血熱感染の原因物質としては便が大きなインパクト、便にはとても多くのウイルスが存在し、便で拡がったといっても過言ではない。エボラ出血熱でなくなる人の66%が下痢で全身が衰弱する。出血症状は20%に過ぎない。日本の老人介護施設でクラスターが発生する事例が多かったが、下水道から CoV-19 が検出されたことから便の処理・おむつ換えにはリスクが伴うことを認識することが重要である。CoV-19 は3つの感染経路(空気感染・飛沫感染・接触感染)を経て鼻腔・口を経て喉の奥(咽頭・喉頭)で感染・増殖し、また、神経との親和性があり、すぐに味覚や嗅覚に作用する例が多い。クルーズ船内でのパンデミックもトイレでの感染が多かったのではとまとめられました。手は感染源であり、手洗いの重要性を強調され、ワクチン接種により、重症化を防ぎ、社会全体の健康を守ることに繋がる事への理解が重要であるとまとめられました。

## 長寿社会福祉事業講演会

# 「あなたと共に歳をとる腎臓の話～慢性腎臓病（CKD）にならないために～」

2021年2月21日（zoom ウェビナーによるオンライン開催）

長寿社会福祉委員長 馬場安紀子

昨秋、新型コロナウイルス感染症の新規患者数が減少していた時期に講演会の準備を始め、そのまま収束すれば例年通りの会場開催も可能かと思われましたが、猛烈な流行第3波に移行したため、今回はオンラインにて開催いたしました。当会として初めての、講師による自宅録音スライドとオンライン録画映像を編集した全編録画の講演会になりました。オンライン配信は遠方からの参加が可能という利点があり、北海道から九州まで50名の参加者がありました。

テーマは、肝腎要の腎臓について。腎臓は、生命維持に重要な臓器であり、著しい機能低下、腎不全となれば透析が必要となり日常生活に多大な影響を来します。しかし一般に、腎機能を自覚することは少なく、腎臓の老化について知らない人も多いでしょう。



### 講演 1

## 「腎臓のことをもっとよく知りましょう！」

東京女子医科大学腎臓内科教授 内田啓子先生

内田先生には、腎臓の基礎的知識から慢性腎臓病（CKD）の原因、診断、診療について詳細にお話いただきました。はじめに解剖学的な図や組織写真にて腎臓の構造と機能、加齢による変化について解説されました。健常人の腎生検所見では、加齢と共に腎糸球体数が減少し、機能も低下します。また、腎機能障害の発症には男女差があり男性は女性の約2倍高いということです。

続いて腎機能のGFR区分と年齢によるCKDの評価、専門医への紹介の基準について。GFR区分のG3以上がCKDとされますが、40歳未満ではeGFR60未満で、60歳以上ではeGFR50未満で腎臓専門医へ紹介することが望ましい。生理的な老化による腎機能低下だけでG5（腎不全）に至ることは殆どないが、さらに腎機能低下を促進する要因として、肥満、喫煙、高血圧症、高尿酸血症といった生活習慣病、さらにIgA腎症、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症（DKD）などの疾患の増悪により腎不全を発症するリスクが高くなります。生理的な老化と遺伝的疾患の予防は難しいが、食生活の改善、生活習慣病の適切な治療により進行を防ぐことは可能です。IgA腎症では、治療法の飛躍的な進歩により透析への移行例は以前より6割減少しました。また典型的なDKDは、蛋白尿を伴い徐々にG5へと進行するが、蛋白尿陰性でも急激にG5になる症例もあり、HbA1c7.0未満を目標に血糖コントロールが求められます。

### 講演 2

## 「腎臓を老化から守る生活習慣が大切です」

東京女子医科大学腎臓内科講師 佐藤尚代先生

佐藤先生には、CKDの予防、進行を遅らせる対策についてお話していただきました。

はじめに、日本のCKD患者数は1330万人で、成人の1/8というショッキングな数値が示されました。透析患者数は34万人で、毎年4万人が透析導入となっています。透析導入の原因の1位は糖尿病性腎症、2位は腎硬化症（高血圧、動脈硬化）、3位は慢性糸球体腎炎で、1、2位が6割を占めています。肥満関連腎症（ORG）も増加傾向です。そこで、CKDの予防対策として、生活習慣病の治療、食生活改善が重要です。適切な塩分摂取量を守るコツとして、塩分制限食品には、無塩、低塩、減塩の3段階表示があるが、減塩表示商品の塩分含有量は案外多いので、塩分量のより少ない低塩、無塩表示製品の使用が勧めです。タンパク制限については、一律厳格な制限ではなく、CKDのステージに応じて、特に高齢者ではフレイル、サルコペニアの合併を考慮し、栄養指導はメタボ予防から低栄養、フレイル予防へのギアチェンジが必要になります。

また、CKD、透析患者では、COVID-19の感染率、致死率が高いことが示され、ワクチン接種が勧められました。感染予防のための自粛生活では運動量が減少しサルコペニア、肥満が増加するとされ、適度な運動も必要です。

講演の後の質疑応答では、NSAIDs服用の注意点、COVID-19対策、栄養指導などについて具体的にお答えいただき、視聴者から、大変丁寧でわかりやすい講演だったと高評価でした。貴重なご講演をいただいた内田先生、佐藤先生、動画の作成と編集に多大のお骨折りをいただいた製作会社「耳」様に厚くお礼申し上げます。

# 国際女医会通信

The Letter from Medical Women's International Association (MWIA)

## 今年の西太平洋地域会議はオンライン開催になります

23

National coordinator 前田佳子

COVID-19 のパンデミックから1年以上が経過しても、日本国内の対策は一つも進歩していません。3月から始まった医療従事者へのワクチン接種も、まだまだ行き渡っていないのが現状です。海外に出られるのはいつなのか……。

国際女医会のニュースレターへの投稿方法が変更になったためか、今年に入ってからはまだ発行されていません。今回は国際女医会のワークライフバランス特別グループによるバーチャル・シンポジウム、西太平洋地域の定例ミーティング、今後の国際会議についてお知らせします。



### 1) 国際女医会の活動

“Achieving Work Life Balance during the COVID-19 Pandemic” organized by MWIA WLB special interest group

国際女医会のワークライフバランス特別グループは英国の Dr. Helen Goodyear を議長、私とナイジェリアの Dr. Dabota Buowari を共同議長として活動しています。2021/2/27 (土) (日本時間 20:00 ~ 23:00) に「COVID-19 パンデミック下での WLB の達成」と題し6人の演者を招いてウェブ講演会を開催しました。

- What is work life balance and why is it important—Clarissa Fabre (UK)
- Doctors wellbeing—Obionma Onya (Nigeria)
- Burnout amongst women doctors—Padmini Murthy (USA)
- Balancing employment and life—A/Prof Deb Colville (Australia)
- Achieving a balanced work life balance in the midst of COVID-19—Dame Clare Gerrada
- Virtual meeting fatigue—Dabota Yvonne Buowari (Nigeria)

### 2) 西太平洋地域の活動

#### ● 西太平洋地域 Zoom 会議

各国の会長または NC を中心に隔月定例 Zoom 会議を開催しています。

2021/2/6 (日本時間 14:00 ~ 16:00) はオーストラリア女医会 (Australian Federation of Medical Women; AFMW) 会長の Magdalena Simonis 博士がオーストラリアの医療システムについて、AFMW との関係、女性医師へのサポート、ジェンダーに関わる取り組み、COVID-19 パンデミックに対する AFMW からのステイトメントなどについて講演しました。参加者は47人でした。

今後は4月に日本と台湾、6月に香港と中国がホストで開催予定です。

### 3) 今後の国際会議

#### ● 国際女医会西太平洋地域会議

##### Western Pacific Regional Conference 2021 of MWIA

<https://www.mwia-wprc2021.org/main.php>

主催：韓国女医会

開催期間：2021/8/20 ~ 21

バーチャル開催となります。

演題登録締切：2021/6/7 まだまだ時間があります。奮ってご登録ください。

参加登録：早割7/5まで、通常7/26まで 登録はウェブサイトからお願いいたします。

登録料	7/5 まで	7/6 ~ 26 まで
医師	USD 30.00	USD 50.00
専攻医・ 研修医・研修生	USD 20.00	USD 30.00
学生	USD 10.00	USD 10.00
その他 (企業など)	USD 30.00	USD 50.00

#### ● 国際女医会第 32 回国際会議

##### 32nd International Congress of MWIA

主催：台湾女医会

台湾で開催予定です。現地で各国の参加者と直接お目にかかりたいですね。

開催期間：2022/6/24 ~ 26 (6/23 は連絡会議と前夜祭)

演題登録締切：2021/12/31 (予定)

# J M W A A R C H I V E S

## 日本女医会 アーカイブ #011

### 或饗宴——杉田つると玄白の系譜

日本女医会雑誌 第25号  
大正14（1935）年12月28日刊

杉田つるとは、1882（明治15）年、現在の兵庫県神戸市に開業医である杉田雄の一人娘として生まれ、1905（明治38）年に私立関西医学院に入学。医師国家試験に合格した1908（明治41）年に、東京の日本医学校に転学し、1911（明治44）年2月に本郷新花町（現在の本郷二丁目）の自宅で小児科医院を開業、同年12月に日本女医会に入会しています。

つるとは杉田玄白（1733～1817）から数えて五世孫にあたり、医師としてのみならず、窪田空穂に師事した歌人としても活躍しており、1913（大正2）年に創刊された『日本女医会雑誌』の発行責任者にもなっています。当時の会誌には、つると交流があったと思われる高濱虚子選による会員から寄せられた俳句、つると自身の句や随筆が、定期的に掲載されています。

#### 或饗宴

杉田鶴子

今より約四十年前、私の祖父玄端から治療をうけて頻死の重症であったのが全治したが其當時御禮をしなかつたから来る某日私宅で聊かおもてなしをしたいと、現來酒會社重役植村澄三郎氏からの御招待であるから出席するやうにといふのです。何だか寝耳に水の様な話ですが兎に角有難く御受けをしました。

叔當日伯父達従弟（亡伯父の子）及私等は赤坂表町の氏の宏壯な御住居へ御訪ねたのです。先方では家族一同出て来られて誠に丁寧な御饗應して下さいました。

叔御主人の語り出されるのには、「私の父は舊幕臣であつたが維新の際縁に放れて明治十六年頃東京神田神保町の裏長屋で貧しい生活をして居た。當時自分は僅な給料をもらつて両親と弟達を養つて居たが或日ふと發病し熱があるので神田佐柄木町に診察所を開いて居られた杉田玄端先生のところへ行つて診て頂いた。併し熱は中々降らない兩三日後父が薬を頂きに行つて容體を話すとそれでは出て来ては悪いからこちらから行つて見やうと早速其日汚い住居へ来て下さつた。其時之はチウス（チフス）と云ふ病氣だから大事にせよと食事の事其他一際細々と注意を與へて毎日或は隔日往診して下つた。

ところが其頃自分は殆ど無一物で御禮どころか車代も薬價も拂へなかつたが少しも變らず治る迄来て診て呉れた。約三ヶ月の後さしもの重病も全治したので苦心して僅かの物を持つて御禮に行くと玄端先生は癒れば結構である、あなたは舊幕臣であるさうな、私も同じ事だ、御境遇もお察して居るから唯御禮に来られた丈で澤山である物品は頂かないからと返されたので有難涙を流して歸つて来た。

爾來今日迄心にはかゝつて居たが機會がなかつた。今では私もどうやら相當の身分になつたのでどうしても玄端先生の御恩を報じたくせめて其子孫の方々を御招待したいと御住所を尋ねて漸く今日は御招きする事が出来た次第ですと、それに對して伯父は、誠に有難いと御禮をして更に、

父玄端の御禮を私達や其孫共されるといふが御受けしてよろしいかどうかと暫く考へた結果かういふ一の話の思ひ出

した。

私が子供の頃父玄端のところへ或日五十歳位の一人の男が訪ねて来て、こちらは杉田玄端先生と仰せられるがもしか成郷先生の御子息様ではないかとの問ひに、さうである旨を答へると、實は私が小兒の頃重病にかゝつた時成郷先生の御世話になり死ぬべきところを助けて頂いたが家が貧しくて御禮が出来なかつたので其儘になつて居ました。ところが晩年父が臨終の時に私を枕邊に呼んで此事を話し、くれぐれも杉田先生に御禮をせよと遺言をして死んでしまひましたが、折柄維新のゴタゴタで杉田先生もどこへゆかれたやらわからず年月を過ごしましたが、此頃麻布に杉田先生が居られると人から聞き度御世話になつた成郷先生の御子息様でせうと思つて御伺ひしました。之は志ばかりですがどうか御納め下さいと金一封を差出した。

祖父玄端は人情日に月に紙の様な此頃、誠に殊勝なお心がけである父成郷も喜んで御受けをするのでせうと其一封を受取つた。後改めて見ると五十圓はひつて居たので、子供等と呼んで此事を話し、尚當時の新聞記者にも話したので新聞紙上にも載せられた。

此金子を玄端は養育院へ寄附をしたのですが、夫れで玄端にも其父に對する御禮を快く受けた程ですから、今日の御饗宴も有難く御受けすることが玄端の意にも叶ふこと、思ふ、それで遠慮なく伺つた次第である。と挨拶をしました。

この随筆中の「祖父玄端（げんたん）」は、杉田玄白の長子立卿（りゅうけい/りっけい）の養子で、杉田家の直系として家督を相続し、のちには福沢諭吉に招かれて慶應義塾医学所の最初のスタッフの一人ともなった人物です。

一方、この玄端から、若き日に治療を受けた植村澄三郎は、のちに渋沢栄一の勧めで大蔵省から札幌麦酒所の専務取締役に就任し、原料麦の改良、ホップの道内生産の整備、ガラス瓶工場の設立などに努め、現サッポロビールの育ての親となりました。この「恩返し」のころには、すでに当時の経済界の要人となっており、彼の胸像は現在も札幌市のサッポロファクトリーに立っています。

なお、玄白以降の杉田家の系譜にはいくつかの説があり、玄白の長子は伯元であり、その子成卿が直系としているものもありますが、成卿は医師ではなく幕府の天文方として活躍したことから、直系は立卿→玄端との考えもあるようです。確實なところは現在は不明ですが、本稿はあくまでも杉田つるとによる記録をそのまま採用させて頂きました。

（文中敬称略・引用箇所は一部常用漢字の表記としました。文責：広報部）



杉田立卿が翻訳した日本で最初の眼科翻訳書（左）と杉田玄端（右）



公益社団法人日本女医会  
**(( ( ( 理事会議事録 ) ) ) )**  
 2020年度第5回理事会議事録

## 1. 日時・場所

1. 日時 2020年11月21日(土)  
午後3時30分～午後4時45分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出席者

### 1) 出席者

理事	大谷智子	花岡和賀子
	青木正美	磯貝晶子
	木村友美	塚田篤子
	中田恵久子	馬場安紀子
	野村明子	樋渡奈奈子
	藤谷宏子	村上京子
	芳川た江子	
監事	沖村英佳	前田佳子

## 2. 継続審議事項

1. 第66回定時総会について (承認)
  - ・栃木支部での進捗状況について馬場副会長から、現段階では、オンラインでの開催も視野に置いて支部で話し合いを行っている旨報告があった。
  - ・エクスカージョンの情報は、会誌241号に同封する予定。
  - ・今回は旅行代理店を入れずに、宿泊は各自で取ることとする。

### 2. 2021年度ブロック懇談会について

(承認)

- ・青木理事より、四国でのブロック懇談会の開催は新型コロナウイルス感染症の影響により目処がたっていないため、状況が落ち着き次第検討する旨の報告があった。
3. 2020年度長寿社会事業講演会日程等について (承認)
    - ・馬場副会長より、現段階では2021年2月21日に講演会を開催予定である旨報告があった。
  4. 2020年度女性の健康支援事業委員会講演会日程等について (承認)
    - ・樋渡理事より、講演会を以下の通り開催する予定である旨の報告があった。
    - 日時 2021年2月7日 14:00～16:00
    - 講師 東北医科薬科大学 賀来満夫教授
    - テーマ 新型コロナウイルス感染症について
    - 開催方法 オンラインでの配信を検討中。
    - 他の演者については検討中。

## 3. 審議事項

1. 2021年度事業計画案、及び予算案について (承認)
  - ・大谷会長より2021年度事業計画案、及び予算案について説明があり、両案共に承認された。
2. 茨城支部の支部会費について (承認)
  - ・大谷会長、馬場副会長より、茨城支部の支部会費の預かり先について報告があり、取り急ぎ茨城支部の全会員に、預金の処遇についての意見を伺う書面を郵送することとなった。
  - 千葉支部の資金について (承認)

- ・大谷会長から、元千葉支部長の秋葉則子先生から千葉支部の資金568万円が寄附された旨の報告があった。
- ・大谷会長から、今後はこうした資金の使い道として、茨城、及び千葉に於いてブロック懇談会の開催を考える旨の意見が述べられた。
- ・また、大谷会長から「千葉基金」といったものを設立してはどうかという意見が述べられた。

3. 2020年9月、10月会計報告承認(承認)  
2020年9月、及び10月の会計報告が承認された。

4. 2020年度4回理事会議事録承認(承認)  
2020年度第4回理事会議事録が、以下の修正を加えることで承認された。

「国際女医会西太平洋地域会議が正式に中止になった」➡「国際女医会西太平洋地域会議が、正式に2021年8月19日から21日に延期となった。会場は、韓国ソウルのミレニアム・ヒルトンの予定」

### 5. 2020年10月臨時理事会議事録承認

(承認)

2020年10月臨時理事会議事録について大谷会長から説明があり承認された。

### 6. 新入会員について (承認)

2020年9月19日から11月17日の新入会員5名が承認された。

### 7. 日本学術会議の任命拒否に対する声明文について (承認)

大谷会長から説明があり、同文書を前田監事修正の文書を正式ステートメントとすることが承認された。

### 8. 乳腺外科医の冤罪に関する件 (承認)

冤罪裁判について前田監事から説明があった。

### 9. 日本女医会創立120周年について(承認)

#### ①記念祝賀会

・大谷会長から、過去の祝典関連と110周年の記念式典、公開講演会、及び祝賀会の概要と収支について説明があり、2022年の120周年にどのような企画を行うか等を今後検討してゆく旨が述べられた。

・祝賀会の開催については、その開催の是非も検討したい旨大谷会長から発言があった。

#### ②百年史(追補版)の発刊について(承認)

・馬場副会長より、追補版の作成にあたって編集委員会の立ち上げが提案され、以下の6名が承認された。

大谷会長、花岡副会長、馬場副会長、広報部(樋渡理事、中田理事、木村理事)

### 10. その他

#### ①2020年度第6回理事会と新年会開催について

2021年1月17日(日)にウイメンズプラザにおいて理事会を開催予定。新年会は中止とする。

#### ②ネットラジオ放送などの企画について

・青木理事より、今後、電話による健康相談等の事業の展開を視野に入れる提案のほか、株式会社社耳から、ネットラジオの企画のお話がある旨の報告があった。

・これに対して大谷会長から、電話相談等に関しては、法的責任問題などについて懸念があるのではないかと質問があったが、青木理事より現在のところは大きな問題は発生していないという回答がなされた。

## 4. 報告事項

### 1. 各部、NC報告

#### 1) 庶務部報告

##### ・会員動静

芳川理事より会員動静について報告があった。

#### 2) 広報部報告

・会誌241号(1/25発行予定)について樋渡理事より、会誌241号の進捗状況について報告があった。

今後は高齢の会員に対して、インターネットなどに対する理解を深める企画を考えている旨報告があった。

#### 3) ナショナルコーディネータ報告

・前田監事より、国際女医会西太平洋地域会議の延期に伴い、10月10日にCOVID-19に関するヴァーチャルシンポジウムが開催された旨の報告があった。前田監事も感染の拡大によって浮き彫りとなった日本におけるジェンダー不平等について報告を行った。

・12月5日にはフィリピン女医会が中心となって、オンライン会議が開かれる予定。

・また、8月に延期となった西太平洋地域会議において「ライフサイクルヘルス」に関するセッションの演者の推薦を求められている旨の報告があり、神奈川支部の牛山元美会員を推薦することとなった。

### 2. 各委員会報告

#### 1) 男女共同参画事業委員会

磯貝理事より、10月23日に配信された男女共同参画事業講演会、及び再配信について報告があった。

#### 2) 小児救急事業委員会

中田理事より、新型コロナウイルス感染症の影響のため冊子の販売については、現在は様子見である旨の報告があった。

### 3. 対外的団体活動

(前田監事)

#### 1) 国際婦人年連絡会

・前田監事より、11月8日に開催された2020NGO国内女性大会についての報告があった。

・その他、国際婦人年連絡会での委員会についての報告があった。

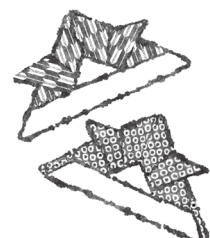
#### 2) 国連NGO国内女性委員会 役員会出席

・11月27日に開催されるセミナーについて連絡があった。

## 4. その他

・馬場副会長より、現代プロダクションの次回作映画について報告があり、同プロダクションに対する寄附の呼びかけがあった。

以上



公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))  
2020年度第6回理事会議事録

## 1. 日時・場所

1. 日時 2021年1月17日(日)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者
  - 1) 出席者
 

理事 大谷智子	花岡和賀子
青木正美	磯貝晶子
木村友美	塚田篤子
馬場安紀子	野村明子
樋渡奈奈子	藤谷宏子
村上京子	芳川た江子
  - 2) 欠席者
- 理事 中田恵久子

## 2. 継続審議事項

1. 第66回定時総会について (承認)  
馬場副会長より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、第66回定時総会の栃木県宇都宮市での開催を2年後の2023年への延期の希望が出ている旨の報告があり、審議の結果以下を決定した。  
・第66回定時総会は、東京を拠点としてオンラインで開催する。  
・栃木支部主催のエクスカッション、懇親会等はすべてキャンセルとする。  
・栃木での開催の延期時期については1年後に再度話し合いを行う。  
・同時開催の講演会については、録画配信とするか等を今後検討する。
2. 2021年度ブロック懇談会について (承認)  
ブロック懇談会については、継続審議事項となった。
3. 2020年度長寿社会福祉事業講演会について (承認)  
馬場副会長からの報告の後、以下が承認された。  
・講演はあらかじめ録画し、当日に配信する。  
・視聴の申し込み方法、女性の健康支援講演会と統一し、質問がある場合はあらかじめ申し込みのメールに記載してもらう。  
・総合司会、座長は馬場副会長、進行役は東京都支部連合会事務の脇ゆうりか氏が担当する。  
・申し込み期間は 2/5～2/15
4. 2020年度女性の健康支援事業委員会について (承認)  
樋渡理事より、ミニ・シンポジウムに参加予定だった黒澤一先生もご講演頂くこととなった旨報告があった。  
・謝金は下記の通りとする。  
賀来満夫先生 70,000円  
黒澤一先生 50,000円  
岩崎恵美子先生 30,000円  
・申し込み締め切り 2/4
5. 茨城支部の支部資金について (承認)  
馬場副会長より、本件については内田さく先生からのみ回答があった旨報告が

あり、改めて大谷会長から出口葉子先生に連絡をすることとなった。

6. 千葉支部資金について(地域活性化基金案) (承認)  
大谷会長から、今後はこの寄附金を原資に地域活性化基金を設立する旨の提案があった。
7. 日本女医会創立120周年関連事業について (大谷会長) (承認)  
大谷会長から、2022年の創立120周年の記念誌の作成企画を今後も継続する旨の発言があった。

## 3. 審議事項

1. 2021年度事業計画案、及び予算案(11月承認済)について  
・2021年度予算案として、資金調達・取り崩し及び設備投資の見込みについて承認された。(承認)
2. 2021年度理事会開催日程案について (承認)  
2021年度理事会開催日程について、今後は予備日等を設けるなどの提案があり、最終の決定は次回3月の理事会とすることとなった。
3. 2020年11月、12月会計報告承認 (承認)  
2020年11月、および12月の会計報告が承認された。
4. 2020年度第5回理事会議事録承認 (承認)  
2020年度第5回理事会議事録が承認された。
5. 新入会員について(資料8) (承認)  
2020年11月18日から2021年1月13日の新入会員3名の入会が承認された。

## 4. 報告事項

1. 各部、NC報告
  - 1) 庶務部報告  
・芳川理事より会員動向の報告があった。
  - 2) 広報部報告  
・樋渡理事より会誌241号の進捗状況について報告があった。
  - 3) 学術部報告  
・磯貝理事より学術研究助成の応募状況について報告があった。  
第41回学術研究助成 8名  
第6回溝口昌子賞 3名  
第3回山本纈子賞 1名

- 4) ナショナルコーディネータ報告  
・前田監事より国際女医会のHPがリニューアルされた旨報告があった。  
・2/6にはオーストラリア女医会主催でZOOMによる西太平洋地域会議が開催される旨報告があった。

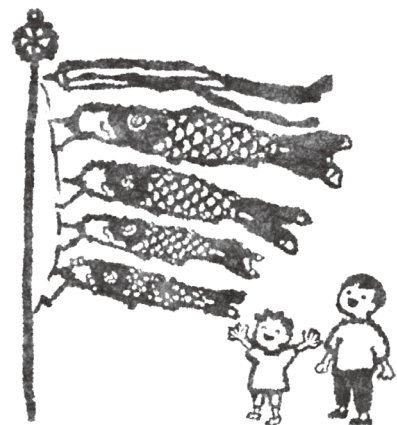
## 2. 対外的団体活動

- 1) 国際婦人年連絡会  
前田監事より以下の報告があった。
  - ・12/16 常任委員会開催
  - ・12/9 第3回セミナー(環境委員会主催)開催
  - ・1/16 第4回セミナー(教育・マスメディア委員会主催)開催
  - ・CSW64の開催は1日のみとなった。
  - ・CSW65はオンライン開催となったが、国連NGO国内女性委員会からの推薦枠がある。
- 2) 国連NGO国内女性委員会  
・12/10 国連総会報告会開催  
・12/17 役員会は中止となった。
- 3) 災害復興まちづくり支援機構  
・11/25 第17期定時総会され、前田監事が参加。

## 4. その他

- 1) アフラック団体保険加入者減少の件  
事務局柳澤より、スポンサーであるアフラックの団体保険加入者が減少し、団体保険としての存続が困難となっているため加入の呼びかけがあった。
- 2) 角川まんが人物伝「エリザベス・ブラックウエル」の監修について  
大谷会長より、角川まんが人物伝「エリザベス・ブラックウエル」の監修についての経過報告があった。
- 3) 書籍「ヒュゲイアの末裔」の紹介を会誌掲載について  
大谷会長より、東京女子医科大学名誉教授 岩田誠先生の著書『ヒュゲイアの末裔』を会誌242号で紹介する旨の報告があった。
- 4) 前田監事より11月での議題となった乳腺外科医の冤罪事件に関する日本女医会のアクションについて、次回理事会の審議事項とする旨の提案があり承認された。

以上





## 厚生労働省より 令和3年度「児童福祉週間」のお知らせ

厚生労働省では、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、毎年5月5日の「こどもの日」から一週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種事業及び行事を行っています。

令和3年度標語

「あたたかい ことばがつなぐ こころのわ」

(上村藍子さん 11歳 香川県)

### 「児童福祉週間」の概要

**期 間** 令和3年5月5日(水)～5月11日(火)の一週間

**主催者** 厚生労働省、(公財)児童育成協会、(社福)全国社会福祉協議会

#### 主な取り組み

- 1) 児童福祉の理念の普及
- 2) 家庭における親子のふれあい促進
- 3) 時行における児童健全育成活動の促進
- 4) 児童虐待への適切な対応
- 5) 母と子の健康づくりの推進
- 6) 多様化する保育需要等への対応
- 7) 障害のある子ども等に対する理解の促進



## 第4回 山本纈子賞のご案内

平成29年に逝去された山本纈子元会長のご遺志により寄附された基金を元に設立された山本纈子賞の募集を本年度より開始致します。この賞は、若手女性医師の海外におけるグローバルに活躍する女性医師をサポートする助成制度です。希望者は下記の要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

- 1. 対象** 申請時に満45歳未満で、大学病院または総合病院などに常勤医として勤務しており、1年以内に海外留学または海外学会報告などの学術活動を行っている、または1年以内に行う予定の日本国に在住している女性医師(教授は除く)。臨床・基礎医学の別は問わない。
- 2. 助成金額** 原則 一人あたり10万円
- 3. 申し込み手続き**
  - 1) 下記の書類を揃えて公益社団法人日本女医会事務局まで郵送
    - ①申請書と履歴書 (<http://www.jmwa.or.jp/yamamoto/yamamot.php>より所定の用紙をダウンロードして作成して下さい)
    - ②学会の抄録
    - ③研究に関する自著を含む共著論文2編
    - ④日本女医会会員(選考委員を除く)2名の推薦状
    - ⑤提出書類に関する誓約書(申請内容に偽りのない旨を明記)
    - ⑥業績目録
  - 2) 受付期間 2021年4月1日～12月25日
- 4. 授与** 2022年5月15日開催の第67回定時総会(東京都内にて開催予定)にて行う(会場までの交通・宿泊費は本人負担)。
- 5. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局 (担当:学術部)

## 第42回 日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成24年4月に公益社団法人に移行いたしましたので、第33回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請くださいますようお願い申し上げます。また、平成28年度からは、山崎倫子氏のご遺志により寄附された基金1,000万円から、若手医師の研究助成を行う「山崎倫子賞」を設立いたしました。学術研究助成応募者の中から、優秀と判断された1名に山崎倫子賞を授与いたしております。

### 記

- 1. 助成の趣旨** 後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。
- 2. 助成金額** 1件30万円まで、採択件数は3件以内。うち優秀と判断された1件には山崎倫子賞として、50万円を助成する。
- 3. 申し込み手続き**
  - 1) 応募資格**
    - ①申請締切時において満45歳未満の日本国内在住の女性医師。
    - ②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。
    - ③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求められることがある。
  - 2) 助成期間** 原則1年間。同一人が重ねて申請をする場合は5年以上の間隔をおくこと。
  - 3) 応募方法** 日本女医会ホームページ (<http://jmwa.or.jp/joseikin.html>) より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：(公社)日本女医会 office@jmwa.or.jp
  - 4) 申込期限** 2021年12月25日必着。
  - 5) 選考及び発表方法** 選考委員会において選考の上、日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。
  - 6) 助成金の贈呈** 2022年5月15日開催の第67回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
  - 7) 被授与者の本会に対する報告**
    - ①2023年9月8日までに研究経過報告書（日本女医会誌掲載用）と収支報告書を提出。また、ホームページ「学術研究助成受賞者の軌跡」欄 (<http://jmwa.or.jp/kiseki/index.html>) にも寄稿することを承諾する。
    - ②被授与者は、本助成金授与後3年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文の別刷10部を提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。
  - 8) 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

## 第7回 公益社団法人 日本女医会 学術研究助成 溝口昌子賞

平成25年に逝去された故溝口昌子先生の御遺志により寄附された基金から、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されました。

### 記

- 1. 助成の趣旨** 女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とする。
- 2. 助成金額** 1件30万円とし、原則毎年1名に授与する。
- 3. 応募資格** 申請時に満55歳未満で、大学病院または総合病院等に臨床の常勤医として役職に就いて勤務しており、臨床、研究、教育、社会活動等を行っている日本国内在住の女性医師（教授は除く）。
- 4. 提出書類** 1) 所定の様式の履歴書 2) 研究に関する自著を含む共著論文 2編 3) 公益社団法人日本女医会会員（選考委員を除く）2名の推薦状 4) 誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記） 5) 業績目録 以上の書類を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
- 5. 申込期限** 2021年12月25日（当日消印有効）
- 6. 表彰** 2022年5月15日開催の第67回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行う（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
- 7. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局 (担当：学術部)

## 日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集致しますので、募集要項にしたがってご申請下さいますようお願い申し上げます。

### 募集要項

- 1. 対象** 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡彌生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 2. 候補者の推薦** 日本女医会員による推薦が必要である。
- 3. 提出書類** 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
- 4. 申込期限** 2021年12月25日（当日消印有効）
- 5. 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 6. 表彰** 2022年5月15日開催の第67回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、記念メダルおよび副賞を授与する。副賞は5万円とする（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
- 7. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：事業部）

## 日本女医会 吉岡彌生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生の偉業を称え、その名を永久に伝えるとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡彌生賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集していますので、募集要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

- 1. 対象** 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各1名に授与する。  
1) 医学に貢献した女性医師 2) 社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 2. 候補者の推薦** 日本女医会員2名以上の推薦が必要である。
- 3. 応募方法** 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局まで簡易書留にて郵送する。  
**業績目録**  
1) 「医学に貢献した女性医師」に応募の方  
● 査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者3編以上を含む5編の全文  
● 上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者7編以上を含む10編の論文名、著者名と抄録  
2) 「社会に貢献した女性医師」に応募の方  
● 国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書  
1) 2) に共通の業績  
● 国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等  
● 国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日
- 4. 申込期限** 2021年12月25日（当日消印有効）
- 5. 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 6. 表彰** 2022年5月15日開催の第67回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、楯および副賞20万円を授与する（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
- 7. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：庶務部）

## 第66回定時総会 online 公開講演会

## 『思春期からはじまる女性の健康 update』

思春期から老年期まで、女性のトータルヘルスケアについて、日本女性医学学会専門医で、テレビでもご活躍の望月善子先生にお話しいただきます。ぜひご参加ください。

2021年5月16日(日) 13:30 ~ 14:45

ZOOM ウェビナーのオンライン開催

<講師> 望月 善子先生 医療法人もちづき女性クリニック理事長 / 獨協医科大学医学部産婦人科特任教授

ご参加をご希望の方は、Eメールを office@jmwa.or.jp までご送信下さい。右のQRコードからもお申し込みいただけます。

## ※ QRコードからの場合

- ① スマートフォンのQRコードリーダーから、下のQRコードを読み取ってお申し込み下さい。
- ② 事務局より当日参加用のURLを返信いたします。シンポジウム前日までに返信がない場合には申し込みメールにてお問い合わせ下さい。
- ③ 講演会当日は、送信されたURLをクリックしてご参加下さい。



## 軽井沢セミナー中止のお知らせ

今年度の軽井沢セミナーにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、大変遺憾ながら中止とさせていただきます。

昨年度に続いての中止となりましたこと、誠に残念に存じます。新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を心より祈念致します。皆様、どうぞご健勝にお過ごしくださいませ。

軽井沢セミナー同好会 鹿田儀子

## 会員動静

(2021年1月～3月末日現在・敬称略)

	氏名	支部	卒年
入会	金子佳代子	世田谷	平成15年
	大原聖子	愛知県	平成15年
退会		24名	
物故	中島 達	福島	昭和26年
	長田清子	新宿	昭和20年
	行武 民	広島	昭和20年

## ● 訂正とお詫び ●

会誌241号の以下を訂正してお詫び申し上げます。

- ・年頭所感 山崎トヨ先生(栃木支部長)の年頭所感の欠落がございました。
  - ・新入会 石川由紀子先生 誤:埼玉支部 正:栃木支部
- ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

## 編集後記

現代は不安定・不確実・複雑・曖昧の頭文字をとった「VUCA(ブーカ)」の時代と呼ばれ先行きが極めて見通しにくい状態が続いており変化対応力が問われる時代です。

その一つなのか自殺者数が増えたとのこと。年代別では10、20代の増加が顕著。

女性の自殺者も目立ち大変気になります。10、20代の原因として新型コロナウイルス禍で学校が長期休校になったこと、うつ病、進路の悩みなどがあげられています。女性については健康問題、家庭問題、経済・生活問題などが起因していると言われております。

劇作家・演出家の平田オリザ氏は人間は社会的な生物だ。生命を維持できても社会が壊れてしまえばあっけなく生命も脅かされる。教育や文化は健全な社会を保つために必要不可欠といえると述べています。

今は春。日本人にとってのこの自然を五感で感じる。この五感レベルで感知できるものをもっと尊重し、大切に扱う心を忘れない事こそ今、必要とされているのではないのでしょうか。(中田恵久子)

## 寄附者一覧

(2021.1～3月末現在)(敬称略)

以下のとおりお知らせいたします。  
ご協力ありがとうございました。

宮城	岩崎恵美子
宮城	樋渡奈奈子
栃木	馬場安紀子
板橋	野村和子
葛飾	野村明子

## 日本女医学会誌

復刊第242号 2021年5月1日発行

編集人 樋渡奈奈子 発行人 大谷智子

制作 あづま堂印刷製

発行所 公益社団法人日本女医学会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19

ロワレル千駄ヶ谷202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail: [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)